

『岩崎純一全集』第六十五卷「科学技術、産業（二の五）」

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第六十五卷「科学技術、産業（二の五）」

人間生活と科学技術、家政学、生活科学(五)
通院、入退院、家庭衛生、生理現象、健康、
理容、美容

編纂、監修 岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第六十五巻を成し、岩崎の言語の著作物のうち、通院、入院、家庭衛生、生理現象、健康、理容、美容等に関する述作を収める。

目次

巻頭言

第一編 〇歳～十九歳

第二編 二十歳～二十九歳

女性の月経周期と共感覚

第三編 三十歳～三十九歳

第一部 「ジintaiのフシギ発見！ 私にはこのページがカラフルに見えています」
の発言内容

第四編 四十歳～四十九歳

第五編 五十歳～五十九歳

第六編 六十歳～六十九歳

第七編 七十歳以降

第八編 著作者の一部および著作権者が岩崎純一であるもの

第九編 著作権者が岩崎純一であるもの

第二編 二十歳～二十九歳

女性の月経周期と共感覚

二〇〇七年六月九日 起筆、擱筆、公開

●僕が mixi 内に立てたトピック、「女性特有の共感覚について教えてください。」

http://mixi.jp/view_bbs.pl?id=19201947&comm_id=64199 について、メール・コメントなどで色んな体験談が聞けていて、なかなか興味深いです。ありがとうございます。

細かく見ると、女性特有の様々な共感覚がありそうですが、何と言っても、「自分の月経周期に色が見える」「自分の月経周期に音楽が聴こえる」といった共感覚だけは、どう頑張っても、男性共感覚者の僕には実感不可能な上、男性共感覚者との決定的な差を示すものなので、本当に興味を持って追ってみたいです。（もし、女性の立場から見て、僕が不適切なことを言っている場合には、遠慮なくご指摘下さればありがたいです。）

「月経の直前は不規則な黒色と灰色」「月経後はパステルカラーのグラデーション」「今日の体調は灰色です」「今月の体調は薄い黄色の波線です」といった表現をする女性がいらっしやり、そういったことを、イメージや比喻で言っているのではなく、本当に色が見えてまぶしかったり、嫌な音が聴こえる女性もいるということで、まさに共感覚だと思います。

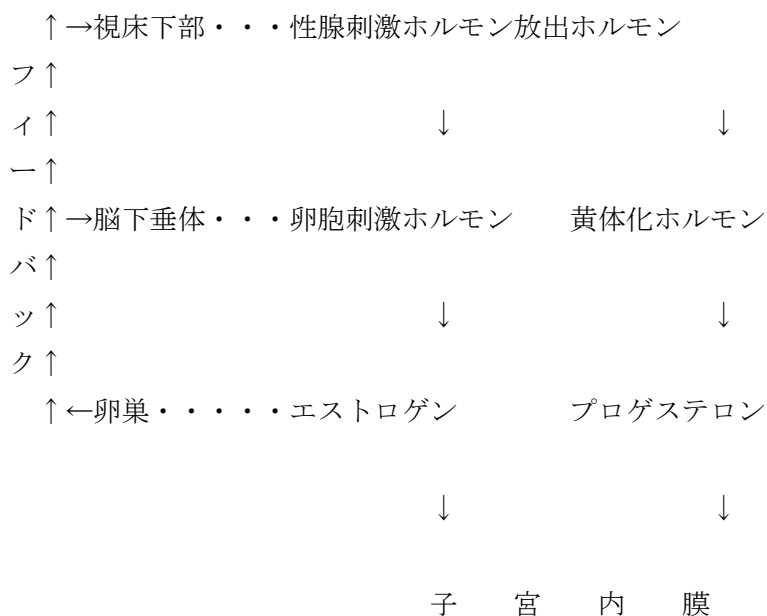
ただ、共感覚を持たない女性であっても、皆、多かれ少なかれ月経周期の快不快を体感しているわけだし、女性ホルモンの周期が体調や肌や心の状態に影響するなんてことは、生活の中で実感しているわけで、これも結局、共感覚を持つ女性は、「共感覚で月経周期を判断している」と言うよりは、「月経周期を判断するのに、共感覚を用いることができる」「一般の女性よりも、自分の月経周期や体調の変化の判断材料が多く、より敏感である」という言い方をすべきかもしれないと思います。

しかし、「自分の月経に色が見えるなんて全く分からない」という女性の意見もあるわけで、男性共感覚者としては、その辺はどうにもしようがないですが、僕ら男性が思っている以上に、女性の月経に対する感覚の個人差は、相当大きいものなのかもしれないと思わされます。

そして、新たに湧いてきた疑問は、「あ」というひらがなが「赤」に見える女性共感覚者は、月経周期によって「赤」の濃淡が変わることがあるのか、ということ。「月経周期によって、聴こえる音が上がったり下がったりするので、音楽の色や匂いが変わって困る」と言う女

性共感覚者の話は、これまでもずいぶんと耳にしましたが、同様に、月経中は「あ」がいつもよりも濃く（薄く）見える、といった共感覚もあり得るのではないのでしょうか。（一番驚いたのは、「妊娠・出産・月経後に、絶対音感が消滅した」というものですが、これはまたの機会に・・・。）

さて、一応、女性ホルモンの分泌を図示。



「だんだんと灰色が見える」などという表現は、まさにエストロゲンとプロゲステロンの分泌の周期に連動しているのだろうし、それが一般の女性には、体が感じる不快感・PMS そのものに表れるところを、女性共感覚者には、微妙な色彩の変化として見え、繊細な音楽の変化として聴こえるのかもしれない。

視床下部からの指令、ホルモンの血中濃度、こういったものが、実際に視覚野・聴覚野などにまではたらくなり、フィードバックして、クオリアとして感じている、ということは、十分に考えられると思います。上記のように、月経のコントロールセンターは、たった1cm四方の間脳視床下部ではありますが、女性共感覚者の体と脳には、もっと複雑な（というよりは、五感・あらゆる知覚同士の配線が分断されていく以前の、女性本来の）仕組みがあるのではないのでしょうか。

現在では、基礎体温を測っていれば、色んなことが読めるでしょうが、昔の女性はそうい

ったことをせずに自分の体の状態を察して生きていかなければならなかったわけで、やはり共感覚そのものが、女性が自分の体調変化・体温変化などを察知するのに、本能的に役立っていたとも考えられます。例えば、「そろそろ景色が灰色になってきたから、あと何日くらいで月経が来るだろう。」「いつもと周りの音の聴こえ方が違うから、今回は調子が悪いだろう。」という具合に。こういった豊かな感覚は、本来あらゆる女性が持っていたのかもしれませんが。

（3日のブログでは、男性のことばかり書きましたが、女性も同じことで、自分の月経周期に共感覚を持っている女性は、自分の体を知る豊かな能力をせっかく持っているわけだから、むしろ安心と言いますか、自信を持って生きていけば良いと僕は思います。）

月経周期をチェックするのに、例えば基礎体温表を、言葉なり、数値なりで付けていくところを、月経周期に共感覚を感じる女性は、月経周期以外の共感覚と同様、自分が月経中に見たものを、色の濃淡や模様などを駆使して、絵に描いてチェックできることになる。そうすると、例えば1年では、十数回の濃淡や模様の反復として描ける。ここまで来ると、僕ら男性共感覚者には、かなり実感として理解できることとなります。

過去には、多くの男性芸術家・作曲家が、自分の共感覚を芸術に込めてきました。もし、自分の月経を作曲できる、絵画にできる、そういう女性がいたら、本当に素晴らしいと思います。今回挙げたような共感覚をお持ちの女性の中には、そういう女性もいるのではないのでしょうか。

第三編 三十歳～三十九歳

第一部 「ジintaiのフシギ発見！ 私にはこのページがカラフルに見えています」 の発言内容

2016年1月7日 インタビュー取材を受ける

2016年4月21日 発売

雑誌誌面

「女性セブン」（2016年5月5日号、小学館）

有料

テキストは小学館、発言内容は岩崎が権利を保持

著者が出版社に権利の一部を譲渡

著者及び著作権者への問い合わせが必要

